

令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 則松 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和4年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

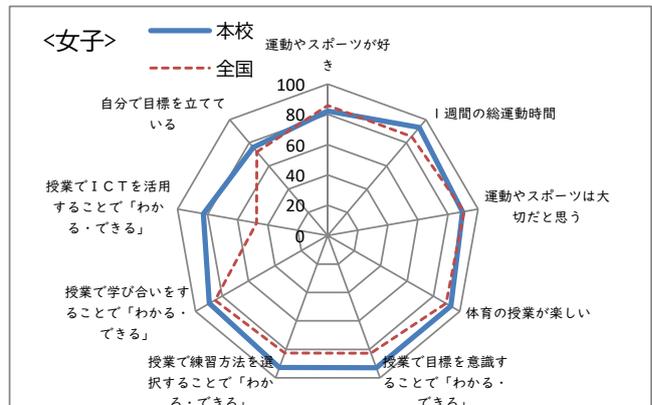
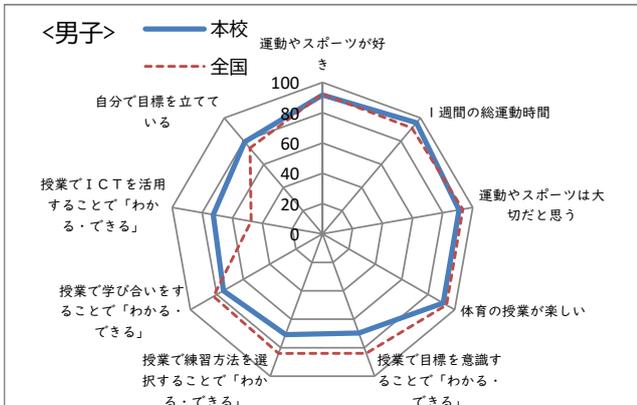
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.21	18.86	33.79	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
本市	16.29	18.72	34.05	39.47	46.86	9.51	151.13	21.34	52.55
本校全国平均以上の種目			○						

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31
本市	16.24	17.46	38.12	37.90	38.13	9.69	144.81	13.31	54.12
本校全国平均以上の種目			○		○		○	○	

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

体育科授業の中でタブレットを活用したことは、子供たちの運動面の「分かる・できる」意識を高め、子供の自信や体力の向上につながっていることが考えられる。他方、目標の意識や練習方法の選択による「分かる・できる」については、女子の平均が全国を上回っているのに対して、男子が下回っている点から男女差の意識の開きがやや大きくなっていることがうかがえる。目標をより個に応じたものにシフトする必要があり、練習方法と関係付けためあての設定ができるような取組が課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

今後も体育部を中心として、マット運動や跳び箱運動での細かい動きを子供自身で見られるようなICTを活用した授業に引き続き取り組んでいく。その際、個に応じた目標がより明確になるように、ホワイトボードでのめあての共有や振り返りカードを使った学習記録を活用し、子供が「分かる・できる」授業に取り組む。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

運動習慣を身に付ける取組として、運動委員会が中心となって「縄跳び大会」を実施した。子供は3週間という限られた期間の中で、休み時間や家庭で多くの技にチャレンジした。運動への励みになるように、賞状やメダルなどで取組の充実を図った。次年度も新体力テストの結果を踏まえた上で、運動習慣を身に付ける取組として、引き続き「縄跳び大会」の実施に取り組めるようにする。